

薦田治子氏の紹介

徳丸吉彦

薦田治子教授は東京生まれ、東京藝術大学でイタリア・バロックや日本の語り物を中心に音楽学を学ばれました。西洋音楽と義太夫節や平家などの日本音楽の実技は個人的に学ばれました。1980年前後にチェコ・スロヴァキアのプラハで数年を過ごされました。こうした経験から、日本音楽を世界の音楽の脈絡で見る方法を獲得され、また、音楽学の研究者に対して、国籍を問わず研究を助けてこれられました。21世紀になって開かれたコロンビア大学の雅楽コースの設立に努力をされたのも、薦田教授のそれまでの活動から考えればよく理解できます。また、日本音楽国際交流会の一員として、ヨーロッパ、オーストラリア、アジアにおいて、日本音楽の紹介を積極的に行った来られたのも、日本音楽を世界の人びとと共有するという態度の現れです。

こうした薦田教授の態度には父上の大来佐武郎氏の考え方の影響があると、私は思っています。大来先生がヴェネツィア・サミットの日本代表として、「我々は地球丸という一つの船に乗っているのだから協力しなければならない」と強調して、各国の代表に感銘を与え、エネルギーや環境問題の意見の対立を抑えられたことは、今でも記憶されています。

薦田教授の研究の特徴は、分析と総合の結合にあります。平家の歴史的史料の詳細な分析を出発点にして、その音楽の組織化の原理を抽出し、それに基づいて失われた伝承を復元しました。これは、分析の有効性を総合から検討することにあります。薦田教授の分析と総合の方法がよく示されているのが、2003年に出版された『平家の音楽—当道の伝統』です。

薦田教授は、平家の伝承が危機的な状況にあることを知ると、今後の伝承を確実にするために、優れた演奏家を選んで、平家を習得させ、国内外の演奏会で彼らに平家を演奏する機会を与えています。

薦田教授はさらにもう一つ、音楽教育の専門家と音楽学研究者を結び付けるための組織を作りました。この組織「つなぐ会」は学校で使用するための教材をビデオと解説書で作成して、公表したところでした。

周知のように、小泉文夫教授は、日本音楽を世界の音楽の中に位置づけ、さらに日本の音楽教育の改善に取り組む努力をしました。私は小泉賞委員会を代表して、薦田治子教授が文夫さんの努力をさらに豊かに実現してこられたことにお祝いと感謝を申し上げます。

(聖徳大学教授・京都市立芸術大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)

略歴

東京生まれ。東京芸術大学楽理科卒業、同大学院博士課程修了。平成14年お茶の水女子大学より博士号取得。同大助教授を経て、現在、武蔵野音楽大学教授。専門は平家琵琶の音楽、琵琶の楽器史、盲僧の歴史的研究。平成15年『平家の音楽』（第一書房）で山崎賞受賞。企画や制作に携わったCD『日向の琵琶 盲僧永田法順』（アドポポロ）、CD『琵琶法師の世界 平家物語』（コジマ録音）はいずれも芸術祭レコード部門大賞受賞。

文化庁文化審議会委員。楽劇学会会長。元東洋音楽学会会長。日本音楽の教育と研究をつなぐ会代表。平家語り研究会主宰。日本音楽国際交流会監事。コロンビア大学中世日本研究所特別研究員。

主要業績

- 2017 「説唱音楽“平家”与仏教音楽“講式”」(17-22 頁) 中央音楽学院学報第 146 号、北京：中央音楽学院。
- 2014 「平家（平曲）伝承の課題—演奏者の養成と復元の取り組み」（6-16 頁）『「平家正節」盲人伝承八句 増訂版解説』（平成 25 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業成果報告書）。
- 2013 ‘Modern forms of *biwa* music in Osaka and the Kansai region.’ (pp.157-172), in *Music, modernity, and locality in prewar Japan: Osaka and beyond (Soas Musicology Series)*, edited by H. de Ferranti and A. Tokita, Farnham: Ashgate.
- 2012 「盲僧琵琶の誕生について」『藝能史研究』第 196 号 1-19 頁。
- 2011 「紀州徳川家伝来の琵琶について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 166 集 158-187 頁。
- 2009 「平家——中世語り物音楽の現場を再現する試み」（226-241 頁）近藤成一他編『中世 日本と西洋』東京：吉川弘文館。
- 2009 「兼常清佐の平家（平曲）研究」（147-159 頁）。蒲生美津子他編『兼常清佐著作集 別巻』東京：大空社。
- 2008 ‘The musical narrative of *The Tale of the Heike*’(pp.77-103), *The Ashgate Research Companion to Japanese Music (Soas Musicology Series)* edited by Alison McQueen Tokita and David W, Hughes, Hampshire: Ashgate.
- 2003 『平家の音楽—当道の伝統—』東京：第一書房。
- 2002 “Theory and notation in Japan” (with NOGAWA Mihoko,

pp.565-584) *The Garland encyclopedia of world music vol.7: East Asia*, edited by Robert C. Provine; Yosihiko Tokumaru, and J. Lawrence Witzleben, New York: Routledge.

- 2002 『日本の語り物』(トキタ・アリソンと共編) 京都: 国際日本文化研究センター。
- 2003 「日本の琵琶—楽器の種類と変遷—」(61-70 頁) 東京文化財研究所編『日本の楽器—新しい楽器学へむけて—』東京: 東京文化財研究所。
- 1993 「平曲の曲節と音楽構造」(161-194 頁)、上参郷裕康編『平家琵琶—語りと音楽』春日部: ひつじ書房。
- 1988 「非盲人社会における平曲の享受と楽譜の校合」(99-123 頁) 蒲生郷昭・他編『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽 4 巻』東京: 岩波書店。